

外来化学療法室では、医師、看護師、薬剤師、看護助手など様々なスタッフが患者さんの治療にあたっています。今回は、外来化学療法後、家で過ごすときに注意していただきたいことをいくつか紹介します。

がん細胞は、活発に分裂し無秩序に増殖します。多くの抗がん剤は、その分裂を抑える作用があります。しかし、抗がん剤は、血液をつくる骨髄細胞、消化管の粘膜細胞や毛髪の毛根細胞など、活発に分裂をしている正常細胞にも影響します。それが、副作用となってあらわれます。それぞれの副作用の症状は、投与後すぐに起きるものから数日後、数週間～数ヶ月後に起きるものまで、発現時期は症状によって様々です。

詳しくは、「抗がん剤治療を安心して受けるために」、「各薬剤のパフレット」などのパフレットも参考にしてください。パフレットが必要な方は、外来化学療法室で配布していますのでお声かけ下さい。

☆抗がん剤の副作用について～その1～白血球減少(骨髄抑制)について☆

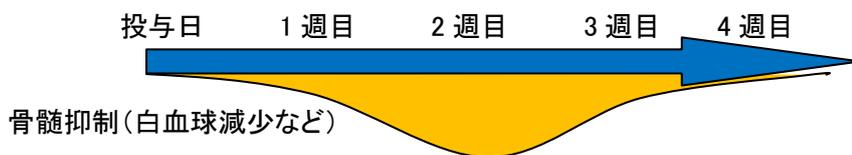
今回は、抗がん剤治療で起きる可能性のある白血球減少(骨髄抑制)時の感染予防対策について紹介します。抗がん剤治療を行うと血液成分(白血球・赤血球・血小板など)をつくる骨髄の働きが一時的に抑えられ白血球の数が減少します。治療後おおよそ7～14日後に最低値になると言われています。白血球は、細菌などから体を守る免疫能をつかさどっていますので、数が減少すると風邪などの感染症にかかりやすくなります。

化学療法室での治療後から以下のことを心がけてください。

- ★手洗い・うがいなどの感染予防
- ★口腔内を清潔に保つ歯磨き
- ★体を清潔に保つシャワー・入浴、トイレ後の陰部の洗浄
- ★人混みに行くときにはマスクをする など



また、感染兆候(38℃以上の発熱、寒気、発熱を伴う咳や下痢など)が生じた時は、早めに主治医や外来に連絡して下さい。早めに対応することが、副作用対策では重要です。



☆治療後、家にいるときに、ご家族と患者さんが注意すること☆

一般的に多くの抗がん剤は、体内に投与された後、体の中で代謝され、投与後1～2日位で尿、便や汗へ排泄されます。そして、排泄された物質中に、抗がん作用をあらわす物質が含まれる可能性があります。

排泄された物質を直接さわったからといって、すぐに危険ということはありませんが、患者さんの吐物処理やトイレ掃除などを行うときは、ゴム手袋などをはめて行い、終了後は手洗いを行って下さい。吐物や使い終わったゴム手袋は、ビニール袋などに入れて可燃物として処理して下さい。

また、抗がん剤を自宅で投与されている場合などに、容器から薬液がこぼれたときにも、直接手では触れずゴム手袋などをして取り扱ってください。

不安なこと、質問などがありましたら外来化学療法室のスタッフまで声をおかけ下さい。